

## 第2回第2次厚木市教育振興基本計画策定委員会会議概要

会議の主管 教育総務部教育総務課  
会議の日時 令和元年10月21日（月）午後3時から午後4時50分まで  
開催の場所 厚木市役所第二庁舎4階 教育委員会会議室  
出席者 第2次厚木市教育振興基本計画策定委員会委員9人  
（事務局）  
教育総務部長、教育総務課長、教育指導課長、社会教育課長、  
教育総務課教育企画係長、教育企画係主査  
傍聴者 なし

会議の概要は、次のとおりです。

《委員10人中9人の出席により、定足数に達し第2回委員会が成立》

### 第2回委員会

#### 1 開 会

《委員長あいさつ》

#### 2 案 件

第2次厚木市教育振興基本計画の基本理念及び基本目標について

《事務局説明の概要》

資料1、2、3、4に基づき、本市の教育における厚木らしさ、厚木市の教育課題、第2次厚木市教育振興基本計画検討プロジェクト素案等について説明。

《質疑》

**委員長** 案件について事務局から説明がありました。資料1、2の計画における厚木らしさや現在の教育課題については、今後協議を深めていく中で参考にさせていただきたいと思います。

では、本日の本題である基本理念と基本目標についてですが、まずは基本理念から議論を始めたいと思います。プロジェクトチームの素案では、これまでの理念を継承したいという提案になっています。ですが、継承を前提とするよりは、まずは基本理念について率直に議論いただきたいと思います。順番にお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

委員 配られたたくさんの資料を読む中で感じたのは、素案は教育の根幹をきちんと押さえてあり、よくできたものだと思います。第2次の計画は令和3年から12年間にわたる長期のものになります。この間に社会は専門家が想像できないほど激変していくはずですので、計画を作るこちらにも精一杯想像力を働かせなくてはならないと思っています。その中でまず一番に思うのは、明るい学校であってほしいということです。子どもたちにとって楽しいところであり、そのために先生たちがはつらつとしている学校であってほしいと思います。もう一つは、主権者教育の必要性です。憲法にあるように日本は主権在民であり、国民が社会や国家をつくっていくにもかかわらず、従来の教育では主権者意識を育むことが希薄になっていると思います。一人一人がよく考え、良く学び、良い選択をできる資質を培うことが大切です。最後は、地域社会の教育力をいかすことです。現在も行われていますが、もっときめ細かく広げていき、特に定年退職後の元気で能力も高く、時間もある方々が教育に参加できるシステムができることを願っています。

委員 この委員を引き受けるに当たって、教育基本法を読み返してみました。基本法は戦後制定されずっと変わらずにいたわけですが、社会の変革に伴う課題などがあり60年ぶりに改正されました。その改正の趣旨を考えながら、現在の厚木市の教育振興基本計画を読み込んでみると、教育基本法の理念が実によく押さえてあり、しっかりと教育の目的を取り入れてできていると感じました。ただ、現計画ができてから10年が経つ中で、変えた方が良く感じる場所も出てきているように思います。法や学習指導要領を読む中で感じたのは、全国各地それぞれの地域によって根幹となる理念が変わってはいけないということと、基本理念は10年ちょっとで変えるべきではなく、現在のものを踏襲していくべきだということです。計画に厚木らしさは出していくべきですが、それは理念や目標では難しいので、基本方針の中で出していくべきものなのかなと思います。ただ、基本目標の「感じる力」は、ちょっとはつきりしない言葉かなと思います。今回プロジェクトチームの案では「共生」となっていて、私も感じる力の元は共生だろうと思いました。感じる力に代わり、共に生きていくという感覚を育む言葉にした方が良くと思いますが、具体的な文言までは思い至っていません。基本方針については、たくさん思うところがありますので、今後具体的な活動を皆さんと十分論議して考えたいと思います。

委員 こうした計画の内容はどこの市町村でも変わりません。これは国の方向性が県に降りてきて、その後、市町村教育委員会にも降りてきているからで、ある意味整合性がきちんと取れていると言えます。しかし、なぜ現状いじめが根絶できず、不登校傾向も1割を超え、更に学力の二極化までも起きているのか。それは、計画の理念などが教育現場からは見えないからではないかと思います。例えば、市内の学校に行き、先生に「厚木市の教育目標は何ですか」と聞いて、答えられ

る先生は少ないと思います。もっと言うてしまうと、自分の学校の教育目標も答えられない。なぜ公立高校が定員割れを起こしていて、私学に生徒が集まっているか。理由は簡単です。私の学校では、先生から子どもまで建学の精神を言えない子はいません。しかし、公立の学校では先生も生徒も答えられないという現状があります。だからこそ、基本目標などはシンプルで、きちんと伝わる言葉にするべきですし、未来に進む子どもたちにきちんと方向性を示す目標であるべきです。第1次の計画も、今出されている素案も、基本的な考え方はいいと思いますが、きちんと伝わる言葉で表現できるといいと思います。言葉というものはとても難しく、例えば「拓く力」と聞いても、子どもたちは何を言いたいのか分からないですし、ピンとこないと思います。

**委員長** 保護者の立場からはいかがでしょう。

**委員** 厚木市は児童館も多く、ありがたいと思う保護者の声を聞きます。コミュニティ・スクールも県内の市では先駆けて導入しています。乳児などの子育て環境も充実していますし、中学校の給食も整備されています。そういう厚木らしさやたくさんさんの自慢できることをこれからも進めていくべきだと思います。逆に、他市町村に良いところがあれば、取り入れれば良いと思います。

**委員** 教育振興基本計画は地域の実情に応じたもので、それぞれの地域に合わせて変わるものだと思いますが、その部分は、主に基本方針の中で考えていくものだと思います。基本理念は、教育の到達すべき姿で、地域によってそう変わるべきものではないと思います。教育基本法の規定に照らしても「未来を担う人づくり」という基本理念は、とても素晴らしいものなので継承すべきと考えますし、そう簡単に変わってはいけないものだと思います。基本目標については、資料3には「安心」があり、資料4にはないという違いがありますが、資料3の方が分かりやすいと思います。資料3の目標にある「挑戦」については、とてもいい言葉で、ラグビーワールドカップの日本代表の姿などから、挑戦することの素晴らしさは子どもも大人も共感できるものです。来年のオリンピック・パラリンピックに向けてスポーツ振興の熱が増してくるはずですので、方針の中にいろいろと盛り込んでいければと思っています。「共生」については、最近は多様性が話題になることが多く、共生は今の時代にとっても重要なものだと思います。「創造」も、いろいろなものを創造して未来を創り上げるという意味で分かりやすく良い言葉ですし、「安心」については、現在の社会でははずせないキーワードです。こうしたところで、私は資料3の基本目標の方がまとまっているのかなと考えます。

**委員** 基本理念「未来を担う人づくり」は、人生100年時代と言われている時に、幅広く考えられる大目標ですし、皆さんの言われるとおり継承という方向でいい

と思います。学校としては、学んだことが将来につながるようにという思いが当てはまりますし、学校を出た後も引き続き当てはまるものだと思います。大切なのは市民・教員に対して、この理念をどれだけ浸透させられるかということです。私は中学校の校長という立場でしたが、この基本理念に沿って、学校教育目標をつくってきましたし、自分の学校の教員に対しては、市の基本理念がまずあり、その上で学校の実情、生徒の実情、地域の実情、保護者の願いを受けた学校教育目標であると説明してきました。その意味では、案で示された理念・目標も現行の理念・目標も非常に幅広くとらえることができ、実情に合わせることもできるものとして、非常に良いものだと思います。より市民の方に具体性を持たせるならば、基本目標が四つの資料3の方がいいのではないかと思います。

**委員** 青少年健全育成会は、地域とのつながりを大切にして事業を実施しています。子どもたちと楽しく遊ぶだけでなく、学校ではできないようなこと、地域の特色や人材をいかした体験教室などを考えていければと思っています。その中で基本目標との関わりでは、最近子どもたちが巻き込まれる犯罪もありますし、安心・安全は、育成会の事業を進めるに当たって関わってくるところだと感じました。非行の問題では、時代時代によって子どもにも波があり、地域の大人による対応も必要です。また、最近公民館の事業に中学生が手伝いで入ってくれることもあり、地域で大人と一緒に様々な活動に関わることで、勉強になっている部分もあると思います。

**委員** PTAとして長年携わってきて思うところは、「未来を担う人づくり」といういい言葉をこの場だけのものにしないことが大切だということです。子どもたちには夢を持って大きく成長していってもらいたいので、学校の管理職だけでなく、先生一人一人、公民館の職員、地域の人みんなが意味を理解し、これに向かって子どもを教育できる形になれば、とてもいいと思います。地域性の違いもあるので、それぞれの地域に合った周知の仕方が必要だと思いますが、みんなで目標を共有できれば、子どものためになると思います。

**委員長** 皆さんから御意見を伺いましたが、基本理念の「未来を担う人づくり」について改めてお聞きしたいと思います。フレーズ自体は難しいものでもないと思います。未来は子どもたちのためにありますし、その未来を自分たちでつくり、動かしていくことは、夢の一部になるものだと思います。この基本理念を承認したいと思います。いかがでしょうか。

**一同** (異議なし)

**委員** 一つ付け加えさせていただけると、今回学習指導要領に初めて前文が加わりま

した。なぜかと考えて前文を読むと、その中にはキーワードとして、持続可能な社会の担い手、つくり手としての子どもたちを育てていくという文があります。これは正に未来を担う人づくりのために、今回初めて前文を定めるのだと感じましたので、現在の理念はやはり素晴らしい文言だと思います。

**委員長**     ありがとうございます。平成19年に教育基本法が改正され、教育振興基本計画を作り、ここで学習指導要領が改訂され、法の理念がより具現化されるのだと思います。ここでは、第2次教育振興基本計画の基本理念は第1次を継承し、今後課題の解決に向けた具体的な施策を計画に盛り込んでいくことを確認して、承認したいと思います。

では、基本目標に進みます。一つ事務局に質問がありますが、基本目標に対する説明が現計画から変わっていますが、この辺りはどのような検討がされたのでしょうか。

**事務局**     方向性としては変わらないものだと考えていますが、新しい学習指導要領や国の教育振興基本計画を読むと、説明を足したいと思う部分があり、このような説明文になっています。「拓く力」では挑戦し続けるという言葉、「感じる力」は共に生きる、多様性という言葉、「築く力」では学び合い、協働、発展し続けるという言葉などです。

**委員長**     ありがとうございました。「築く力」の説明として、「よりよい社会」という漠然とした表現から「発展し続ける社会」という表現に変えることで、「持続可能な」という意味も加わりましたし、「共に支え合う」という表現も「学び合い」や「協働」という言葉で具体化したということですね。皆さんから意見はございますか。

**委員**     目標として違和感があるのは、四つ目の「安心」です。「挑戦、共生、創造」は人に求める力であるのに対して、安心は条件整備の意味合いが強いと思います。教育者にも子どもにも保護者にも分かる目標として、この四つを並列するのは違和感があります。「安心」は、基本方針でいいと思います。また、趣旨としては「拓く力、感じる力、築く力」でいいのですが、言葉は伝える力として大切なので、もう少し丁寧で伝わりやすい表現を考えた方が良くと思います。特に「感じる力」は感性や心の問題であって力の問題ではないと思います。言葉としては、より分かりやすい「豊かな心」や「思いやりの気持ち」、「優しさ」などでもないのでしょうか。また、あまりに「力」を全面に出すことは最近では嫌われる傾向にあります。「築く力」についても、厚木はコミュニティ・スクールなどがあり、みんなで協働しようという土壌がありますので、「社会を築く」という堅い言葉より、もう少し柔らかい「協力し合う、助け合う」という意味合いの

言葉が良いと思います。グローバリズムと言われていますが、今は一部の人だけがグローバリズムとなって二極化していますので、グローバリズムとローカリズムは合わせて推進しなければならないと考えています。基本目標の説明文の内容はこのとおりだと思いますが、全面に出す言葉の選択としては抵抗感があります。

**委員** 今回出された「挑戦、共生、創造、安心」の四つは、第1次計画の目標の3つの力の内容をそれぞれ焦点化したもの、つまり今後12年は特にここに力を入れていこうという趣旨なのかなと私なりに捉えました。「拓く力」一つ取っても、この言葉に含まれるものはたくさんあると思います。第1次の計画は様々な意味をひっくるめてこの言葉とした。第2次では様々なものの中から何かに焦点化しようということで「挑戦、共生、創造」という言葉が出てきたのだと考えました。ただ、4つ目の「安心」には、私も違和感を覚えました。共生が成り立つためには、自分で人生を切り拓くと同時に、自分を尊重するのと同じくらいに他の人達の気持ちや生活を大事にしていくということが必要になります。その中で安心感というのは生まれてくるので、「安心」は「共生」の中に含まれるのではないかと思いました。

**委員** 確かに人の能力を指している「挑戦、共生、創造」と場作り・環境の言葉である「安心」は並列すると、整合しないところもありますが、人づくりを目指す中では、場はすごく重要なもので、これから社会の不安定さが増していく中で、安心の確立はとても大事であるということを打ち出した気持ちも分かります。私は目標として、人の能力ばかりにこだわらなくてもいいのではないかと思いました。そういう意味では、「安心」だけでなく他にも大切なものはあるかも知れません。

**委員長** 学校では、子どもたちを分かるようにしたい、できるようにしたいというところから話が始まりがちですが、ある方から「分かるようにするには、まず参加することが重要だ」という話を聞いたことがあります。安心して参加する場があるということの上に、分かるようになるなどがあるということですが、私は考えたこともありませんでした。教室に行けば子どもは座っているものと思っていました。居心地よく参加できるということが「分かる、できる」などの学びの実にすごく関係しているということをそれ以来実感しています。それが「安心」という言葉でいいかはもう少し考える必要があると思いますが、子どもの力を芽生えさせる場はとても大切だと感じています。

**委員** 校長先生が明るい先生たちも明るくなり、先生が明るい子どもたちも明るくなります。子どもは家では親の顔を見ますが、学校では先生の顔を見ます。先生が明るい子どもたちは安心して勉強できますし、先生が不安定だと子どもはあまり話を聞かなくなり、先生が怒らないとどんどん騒ぎ出してしまいます。子

どもは心の目がとてもいいのだと本当に感じています。そういう意味でも、子どもの安心は、絶対必要なものだと思います。

**委員長**  少し整理したいと思います。資料4の旧来の計画は、基本目標を付ける力として表現していましたが、感じる力とか築く力は身近な言葉としてきちっと受け入れてもらえるのかという御意見がありました。一方の資料3の案では、子どもたちなどへの願いをまとめたものとして表現しています。安心はひとまず置いておきたいと思いますが、資料3の方がキーワード、フレーズとして言いやすいと思いますが、いかがでしょうか。

**委員**  特に「感じる力」は、ちょっと分かりづらいと思います。資料3では「共生」に力点を置いて分かりやすいですが、説明で使っている「豊かな感性」は、激動の時代の中での感受性、環境の変化に対する関心というような意味合いにした方が良いでしょう。今後は社会や情報環境、働き方の変化が激しくなるので、そういうものに対して自ら関心を持つことはとても大切ですし、操られない国民なるという主権者意識の問題にもつながるものです。このため「豊かな感性」は「環境への変化に対する豊かな感性」の方が良いのですが、説明が長くなってしまうのは良くないとも思います。

**委員長**  細かい文言をここで決めるというよりは、この場合は事務局に検討していただくための意見を出し合うということだと思います。

**委員**  私も資料3の方が良いと思いますが、「安心」はやはり基本方針に入れるということだと思います。子どもに説明するとき、「挑戦」はチャレンジ、「共生」は「共に生きる」ということで分かりやすいと思います。しかし、3つ目の「創造」は難しい言葉あると同時にとても大きい概念の言葉です。まちづくりでは、何かをしようとする、いつも同じようなメンバーしか来ないという側面があります。なので、社会参加するという意味での言葉としては、「創造＝クリエイティブ」では難しいと思います。できれば幼稚園や小学校低学年の先生が子どもに教えられるような言葉にすべきだと思いますので、そのような先生に聞いてみても良いのではないのでしょうか。社会を創るということは、それぞれが自治会や市のプロジェクトなどのメンバーとしてみんなと一緒にやっていくということで、参加する力が大事になってきます。自分の感覚や都合だけで行動するのではなく、厚木のまちはみんなで作るという意識が厚木らしきにつながっていくのだとすると、この「創造」は言葉として難しいと思います。

**委員長**  委員の皆さんも「創造」に代わる言葉が思いつきましたら、事務局までお知らせください。では、今回の基本目標は「挑戦」や「共生」のような私たちの身近

にある二字の熟語に変えていくということによろしいでしょうか。

一 同 (異議なし)

委員長 最後に、安心について話し合いたいと思います。大事な要素だということは一致できると思いますが、いかがでしょうか。

委員 人は、抑圧なく伸び伸びと自分らしく生きられることが大事で、そのような意味を表わす言葉が良いと思います。「安心」も「創造」と同じくあまりに意味が広すぎて、手垢が付いた言葉とも言えます。

委員 私はこの資料を見たときに、「安心」を基本目標という大事なところに掲げなくてはならないような時代になってしまったのかと思いました。今は家庭でさえも安全な場所と言えませんが、学校も地域社会も安全が確保できるところまでもっていかないと、計画にあるような力を発揮できないのだらうと思います。

委員 子どもでも社会人でも一人一人のポテンシャルが最大限発露される社会や教育であってほしいと思います。自由でかつ秩序が保たれ、かつ伸びやかに生きられる社会であると素晴らしいと思います。「安心」も、法やルールの押し付けによるがんじがらめの「安心」では駄目だと思います。

委員長 もし基本目標に「安心」を置くのであれば、「自分らしさを保証する」というようなレベルの言葉、人の理想的な姿を表わすような言葉であれば、目標に置けませんが、物的な意味での「安心」に傾斜するのであれば、基本方針の方に置いた方が具体的な施策に結び付けやすいのかなと思います。

委員 新たに目標に入れてきた職員プロジェクトチームの思いは、どんなところにあるのでしょうか。

事務局 プロジェクトチームでいろいろと話し合う中であえて「安心」を入れましたが、事務局内でも「安心」を「挑戦、共生、創造」と並べると、違和感があるという意見は出されました。ただ、どこかで「安心」の要素は強く打ち出したいという思いはあります。

委員長 「挑戦、共生、創造」は、言葉の問題はあるけれど、方向性としては問題ないですよ。 「安心」は、プロジェクトチームも大事なこととして打ち出したいけど、置く場所に座りの悪さを感じているということでした。言葉の選び方や「安心」の置き所は次回会議への宿題としてよろしいでしょうか。

一 同 (異議なし)

委員長 それでは、協議はここまでとしたいと思います。事務局の方から何かありますでしょうか。

事務局 次回日程については、お手元に開催通知を置かせていただきました。よろしくお願いいたします。次回については、基本目標の「創造」に代わる言葉とそれぞれを説明する文章、「安心」の置き所、基本方針の大枠と全体像について、御検討をお願いいたします。

委員長 目標と方針の関係について、対となる結び付きあるかなど構造化している部分がありましたら、次回説明していただけると分かりやすいと思いますので、よろしくお願いいたします。他に皆さんから何かありますでしょうか。

委員 今後、先進的で素晴らしい取組をしている学校の事例から学ぶことも大切ではないかと思います。

委員長 分かりました。他にないようでしたら、事務局にお返しします。

### 3 閉 会